

令和4年度老健事業「適切な介護教員講習会のあり方に関する調査研究事業」結果概要について

介護福祉士養成大学連絡協議会研修会 第1回 5月9日

厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課
福祉人材確保対策室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

◆ 本日の内容

1. 調査研究事業概要
2. 結果概要

本事業の背景と目的

【事業の背景】

- ・ 養成校の教員においては、2019年度新カリキュラム導入、外国人留学生の増加による学生像の変化などがあり、これらを踏まえた教授の視点や指導力が求められている。
- ・ 養成校の教員を受講対象者とする「介護教員講習会」については、運営の体制や講習会の内容に差があるという課題があり、一定の標準化が必要とされている。

【目的】

- ・ 介護教員講習会の実態を明らかにするとともに、本講習の運営にあたっての課題や、受講者である養成校教員からの要望などを把握し、適切かつ効果的な講習のあり方の検討を行う。

PwCコンサルティング合同会社HPにて報告書を掲載。

<https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/track-record/health-promotion-business2023.html>

調査研究の方法

先行研究の確認

- ・ 介護教員にかかる指導上の課題を明らかにすることを目的として実施。
- ・ 確認結果は、教員調査および介護教員講習会実施者調査の調査票作成における基礎資料とした。

教員調査

- ・ 介護福祉士を養成する介護福祉士養成校の教員のうち、介護教員講習会を受講した教員において、受講した講習会の内容や、講習会の効果、講習会に望むこと、また既存の自身の学生指導における課題点や困りごと等の実態を把握するためアンケート調査を実施。
- ・ 対象は、介護教員講習会受講済みで、養成校教員、福祉系高校に所属する教員。
- ・ 主な調査項目は、「教員の講義の取組状況」、「教員が受講した介護教員講習会」、「教員の自己研鑽の取組」
- ・ 回収状況 <有効回答> 介護教員 387人

介護教員講習会実施者調査

- ・ 現在開催されている介護教員講習会における運営実態やカリキュラムの内容を確認するため、令和4年度時点で本講習会を開催している事業者（6団体）にアンケート調査を実施。
- ・ 令和4年度時点で介護教員講習会を開催している実施者、及び厚生労働省より、講習実施にかかる各種資料を送付いただき、整理を行った。
- ・ アンケート調査 <有効回答> 4団体 ・ 資料調査 <有効回答> 4団体

検討委員会

○秋山 昌江	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 教授
真田 龍一	全国福祉高等学校長会 事務局
白井 孝子	東京福祉専門学校 副学校長
野田 由佳里	日本介護福祉士養成施設協会 理事/教育力向上委員会委員長
平野 啓介	日本医療大学 総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科 准教授
望月 玲子	千葉県立松戸向陽高等学校 福祉教養科 学年主任（教諭）
吉岡 俊昭	日本介護福祉士会 常任理事

○は委員長

<研究協力（オブザーバー）>

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

<事務局>

PwCコンサルティング合同会社 安田 純子／岡田 泰治

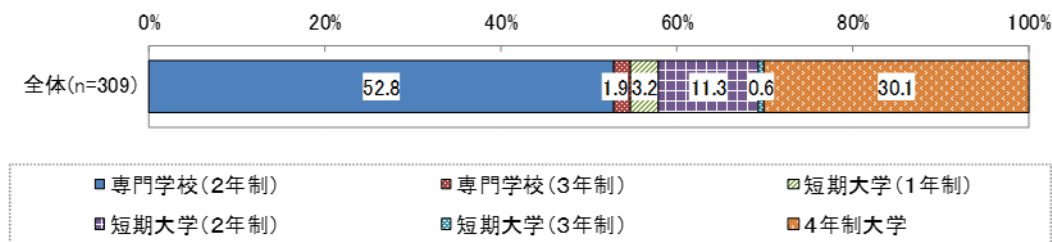
調査結果 1) 回答者について (抜粋)

問1. 教員としての属性 (複数選択)

- ・ 「養成施設教員」が79.8%、「福祉系高校教員」が20.2%となっている。

問1-1. 【問1で「1. 養成施設教員」と回答した方】所属する養成施設の種別。

- ・ 「専門学校(2年制)」が52.8%と最も高く、次いで「4年制大学」が30.1%、「短期大学(2年制)」が11.3%。

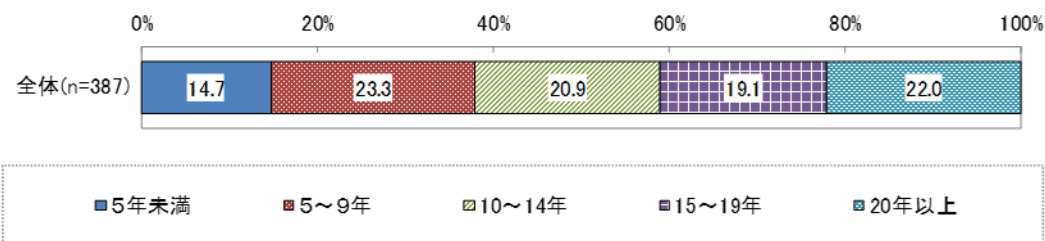


問1-2. 【問1で「1. 養成施設教員」と回答した方】現在所属する養成施設での、教員としての立場。

- ・ 「専任講師」が96.4%、「非常勤講師」が3.6%。

問3. あなたの養成施設・福祉系高校での教員としての経験年数。(記述式)

- ・ 「5～9年」が23.3%と最も高く、次いで「20年以上」が22.0%、「10～14年」が20.9%。



調査結果 2) 講義に対する取組・課題

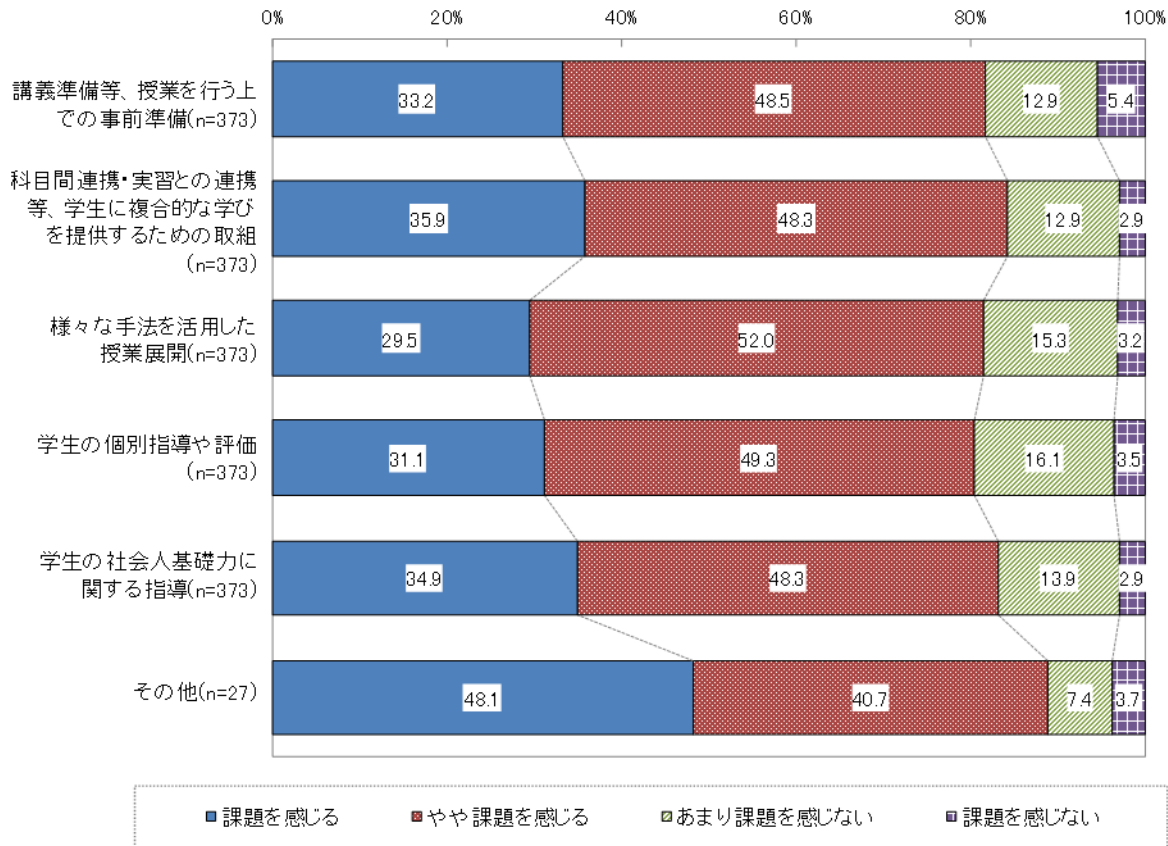
講義に関する教員としての取組について、**取組に関する対応内容を5種に分類し、それぞれ対応状況を確認**した。

- ・ **授業を行う上での事前準備にかかる各種取組**については、＜授業案の作成＞が59.3%、＜領域の目的、教育内容のねらいを理解した授業づくり＞が61.4%、＜教育に含むべき事柄と留意点を理解した授業づくり＞が58.5%、＜学生やクラスの状態に合わせた授業づくり＞が59.9%「概ね対応できている」と回答した割合が6割前後であり、他の項目に比べて割合が高い傾向にあった。
- ・ **科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組**については、＜介護実習施設との連携＞が「概ね対応できている」が43.7%と最も高かった。
- ・ **各種授業展開方法**については、＜グループワークの展開＞が「概ね対応できている」が50.7%と最も高かった。
- ・ **学生の指導や評価にかかる各種取組**については、＜生活指導・カウンセリング等、学習以外のサポートを必要とする学生への個別対応＞では「概ね対応できている」が41.5%と最も高かった。
- ・ **学生の社会人基礎力習得の指導にかかる取組**については、「概ね対応できている」が33.0%であった。

調査結果 2) 講義に対する取組・課題

問11-1. あなたが、**教員としての対応事項について、どの程度課題を感じているか**について教えてください。

- ・ 「その他」を除くと、いずれの対応事項も「課題を感じる」と回答した割合は3割台であった。
- ・ 「やや課題を感じる」を含めて見ると、いずれの対応事項も8割を超えている。



その他：

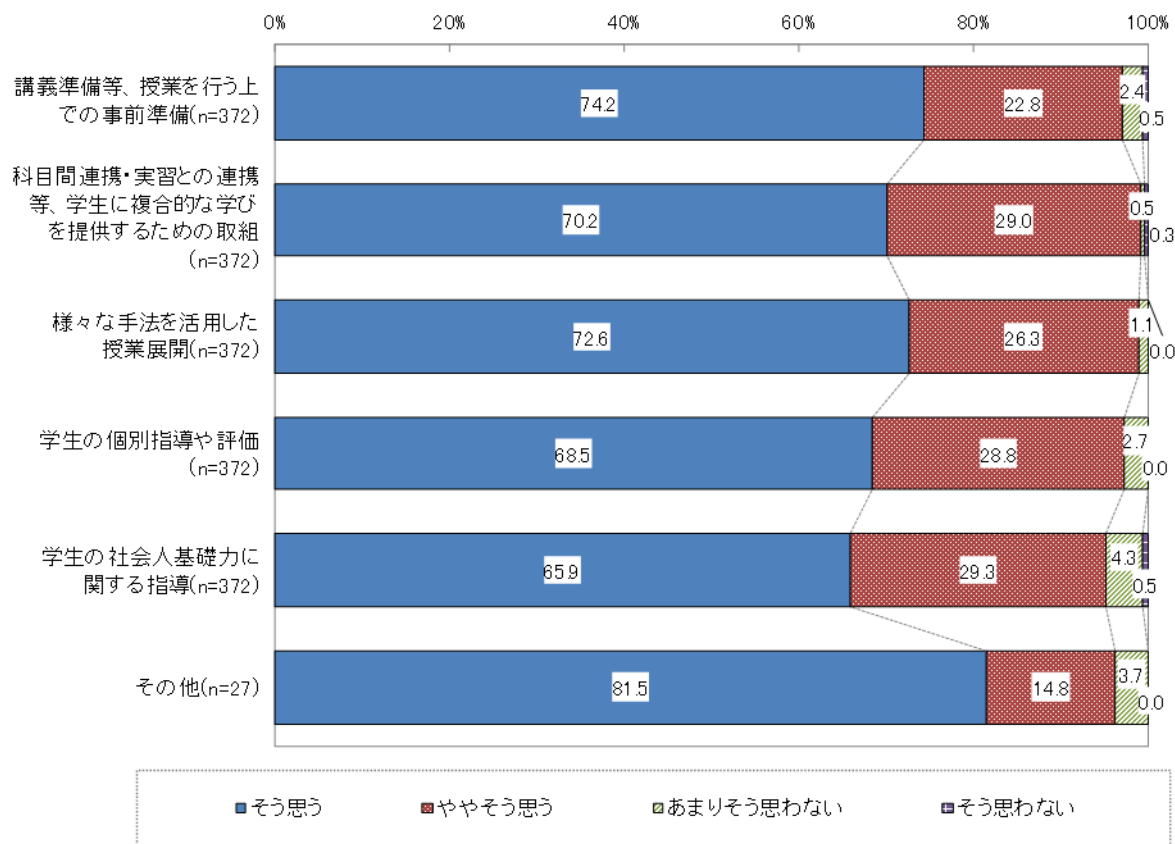
(課題を感じる)

- 外国人留学生への対応と指導方法
- 学習障害・身体的な障害を有する学生に対しての個別指導や教育方法
- 中核となる専門職であることを意識させる授業展開指導
- 読む・書く・伝える・感じとる力等

調査結果 2) 講義に対する取組・課題

問11-2. **教員として介護福祉士養成を始める前に、どのような事柄に関する学習（研修受講等）をしておく必要性を感じるか**について教えてください。

- ・ <講義準備等、授業を行う上での事前準備>が74.2%、<科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組>が70.2%、<様々な手法を活用した授業展開>が72.6%と「そう思う」と回答した割合が7割を超えている。
- ・ 「ややそう思う」を含めて見ると、いずれの対応事項も95%を超えている。



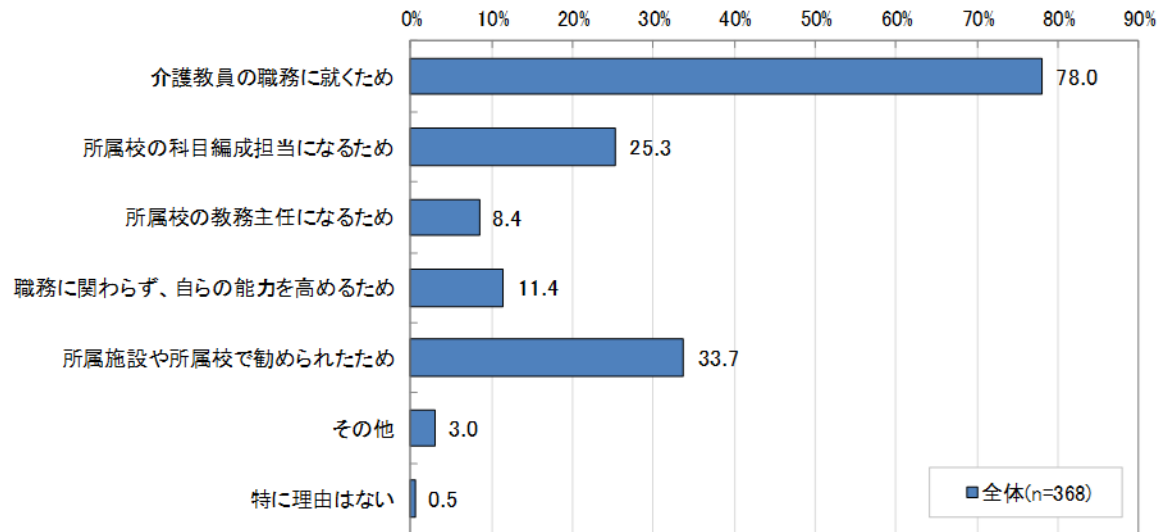
その他：
(そう思う)

- 読解力、文章力など全般的な国語力
- 中核となる専門職であることを意識させる授業展開指導方法
- 学生の多様性・留学生の対応
- 現場での事例の伝え方
- 一般教養などの学習基礎力の向上方法
- 授業態度悪い学生に関する指導のあり方
- ケアの根拠について説明できる知識・技術等の学習 等

調査結果 3) 介護教員講習会について

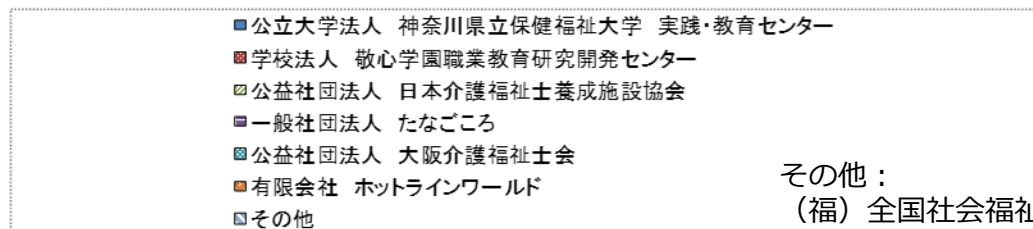
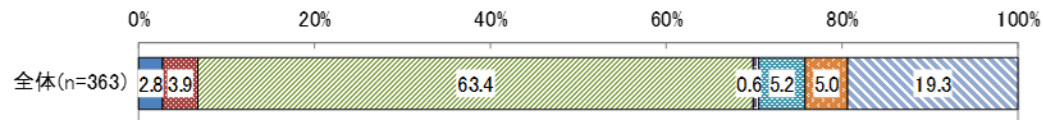
問13. あなたが**介護教員講習会を受講した理由**について教えてください。(複数選択)

- 「介護教員の職務に就くため」が78.0%と最も高く、次いで「所属施設や所属校で勧められたため」が33.7%、「所属校の科目編成担当になるため」が25.3%。



問14. あなたが**受講した介護教員講習会の実施主体**を教えてください。

- 「公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会」が63.4%と最も高く、次いで「公益社団法人 大阪介護福祉士会」が5.2%、「有限会社 ホットラインワールド」が5.0%。

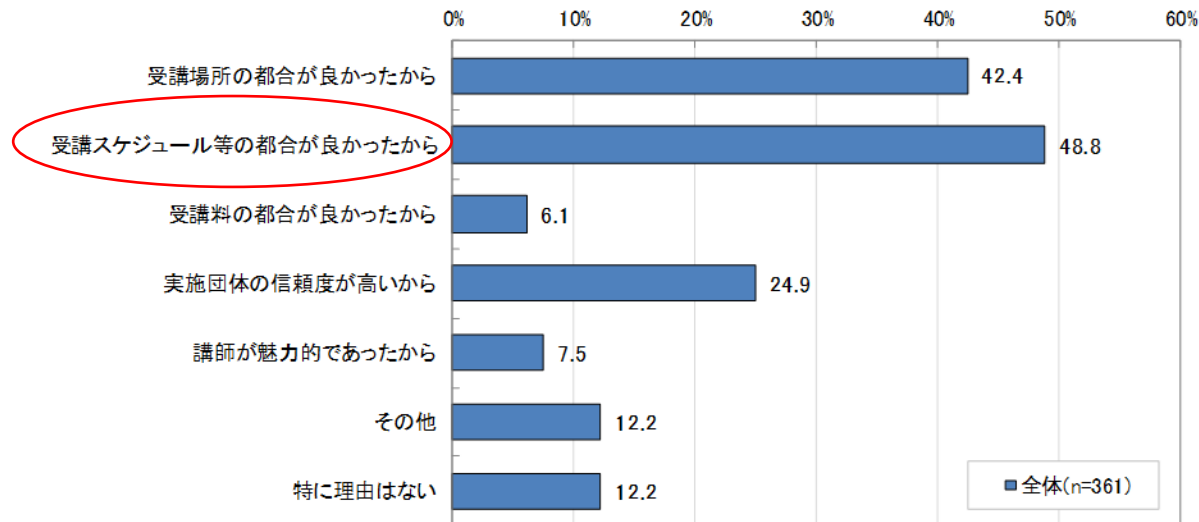


その他：
(福) 全国社会福祉協議会中央福祉学院 等

調査結果 3) 介護教員講習会について

問15. あなたが受講した介護教員講習会について、複数実施団体があるなか、**当該実施団体を選んだ理由**を教えてください。（複数選択）

- 「受講スケジュール等の都合が良かったから」が48.8%と最も高く、次いで「受講場所の都合が良かったから」が42.4%、「実施団体の信頼度が高いから」が24.9%。



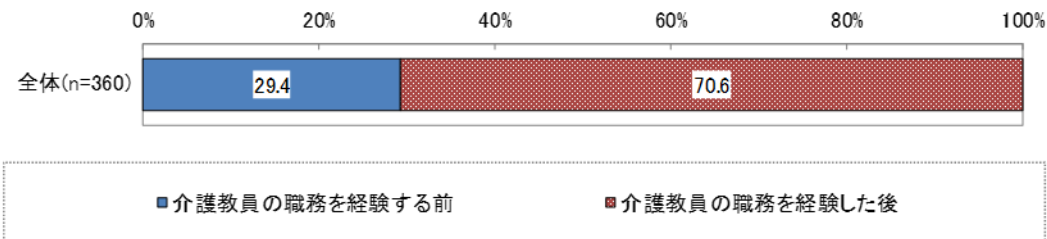
その他：

他団体の開催がなかったため、所属校からその団体を勧められたため、その団体の講習を受けるよう指示があったため 等

調査結果 3) 介護教員講習会について

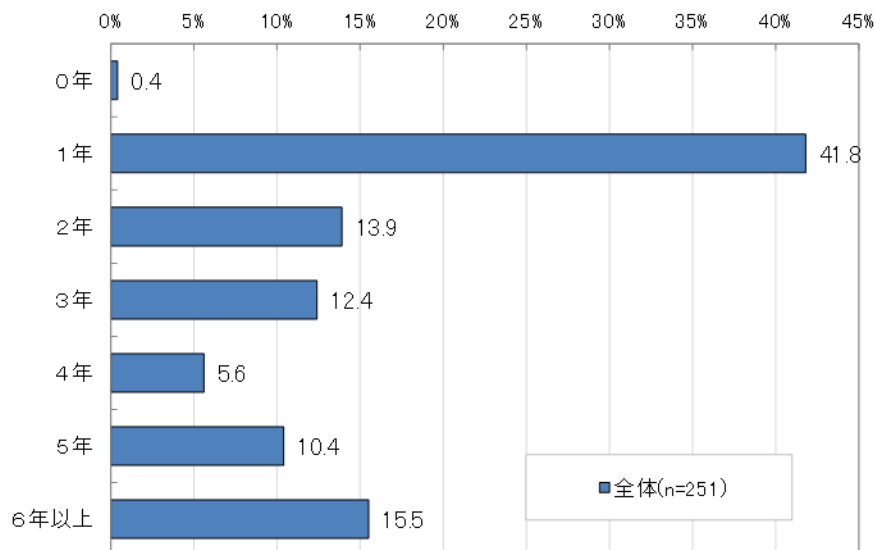
問17. あなたが**介護教員講習会を受講した時期**を教えてください。

- 「介護教員の職務を経験する前」が29.4%、「介護教員の職務を経験した後」が70.6%となっている。



問17-1. 【問17で「2. 介護教員の職務を経験した後」と回答した方】**教員経験何年目で介護教員講習会を受講**されたか教えてください。（記述式）

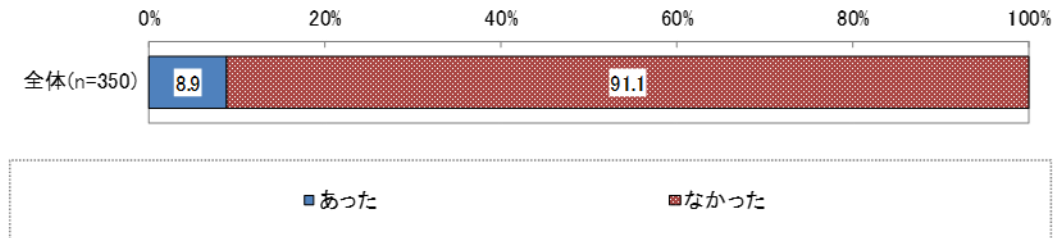
- 「1年」が41.8%と最も高く、次いで「6年以上」が15.5%、「2年」が13.9%、「3年」が12.4%。



調査結果 3) 介護教員講習会について

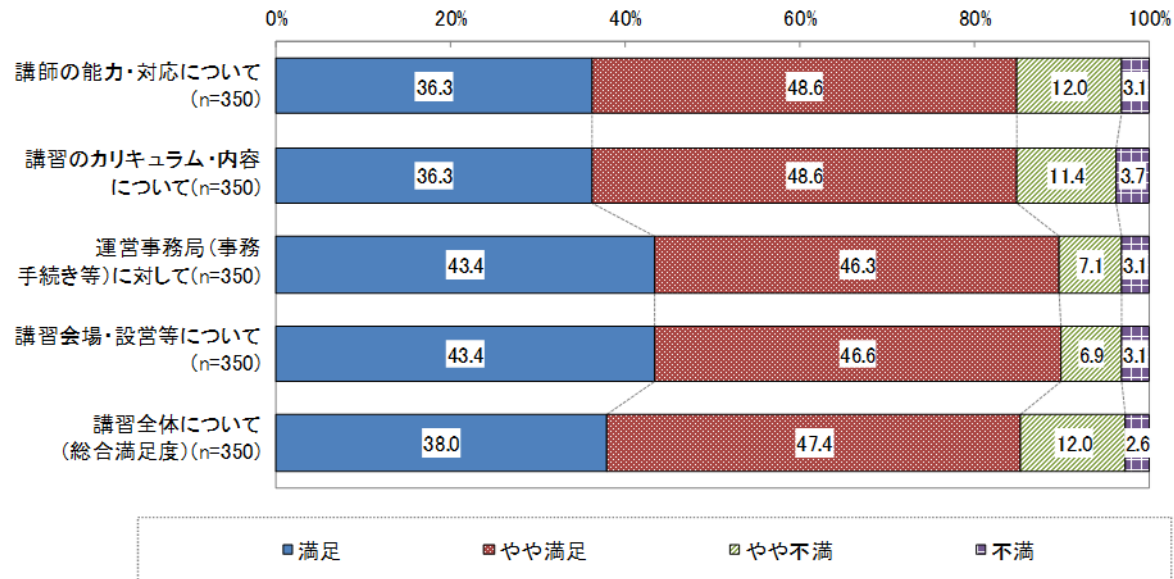
問19. あなたが受講した介護教員講習会では、**受講後、何らかの学び直しの機会の提供**（追加の講習等）はありましたか。

- 「あった」が8.9%、「なかった」が91.1%。



問20. あなたが受講した介護教員講習会における受講満足度について、以下の項目ごとに教えてください。

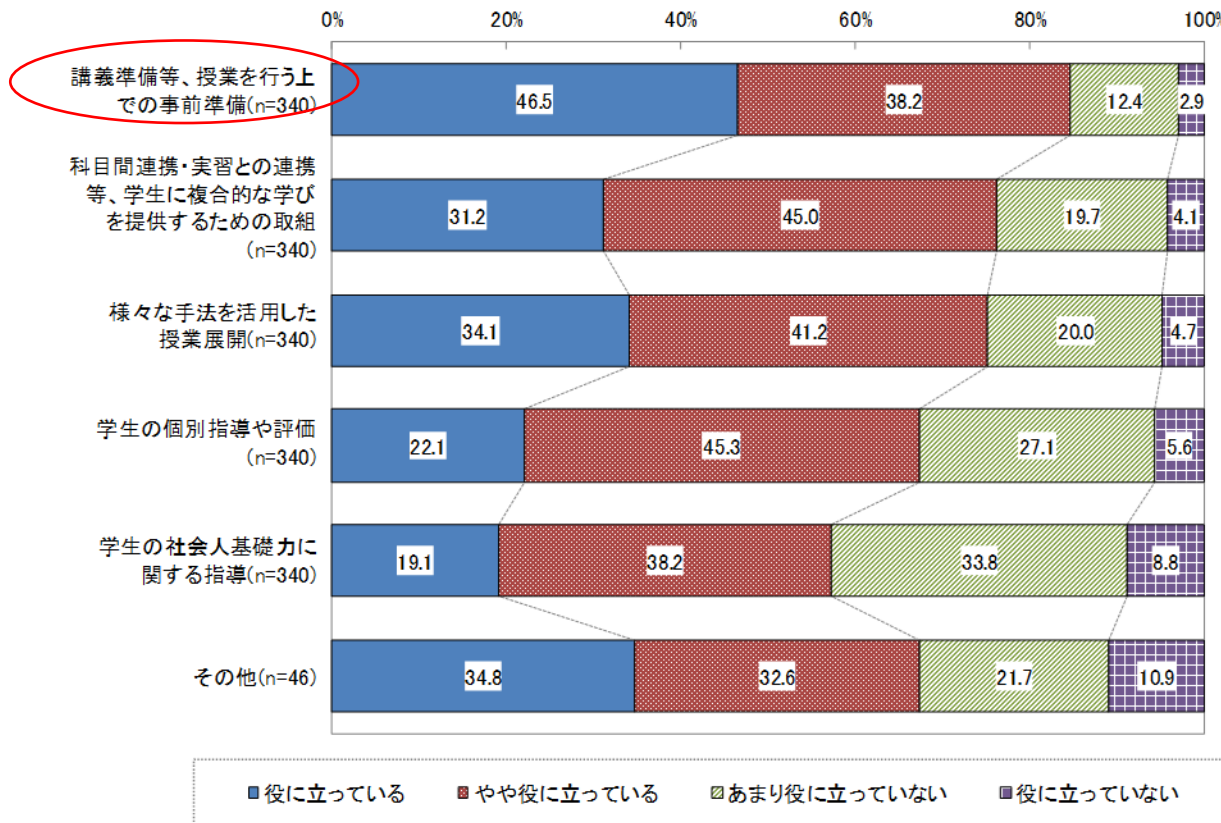
- <運営事務局（事務手続き等）と<講習会場・設営等について>は、「満足」が43.4%と4割を超えている。
- 「やや満足」を含めて見ると、いずれの項目も8割を大きく超えている。



調査結果 3) 介護教員講習会について

問23. あなたが**介護教員講習会で学んだことが、どのような点で役に立っているか**について、それぞれ教えてください。

- ・ **〈講義準備等、授業を行う上での事前準備〉**は「役に立っている」が46.5%と4割を超えている。
- ・ 「やや役に立っている」を含めて見ると、84.7%（「役に立っている」(46.5%)+「やや役に立っている」(38.2%)を合算）と8割を超えている。
- ・ **〈科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組〉**が76.2%（「役に立っている」(31.2%)+「やや役に立っている」(45.0%)を合算）
- ・ **〈様々な手法を活用した授業展開〉**が75.3%（「役に立っている」(34.1%)+「やや役に立っている」(41.2%)を合算）と7割を超えている。



学び直しの機会の具体的内容：
(役に立っている)

- その時一緒に学んだ仲間たちとの繋がりが(情報交換ができる)
- 研究は現在一番役に立っている
- 養成校としての事務手続き

(役に立っていない)

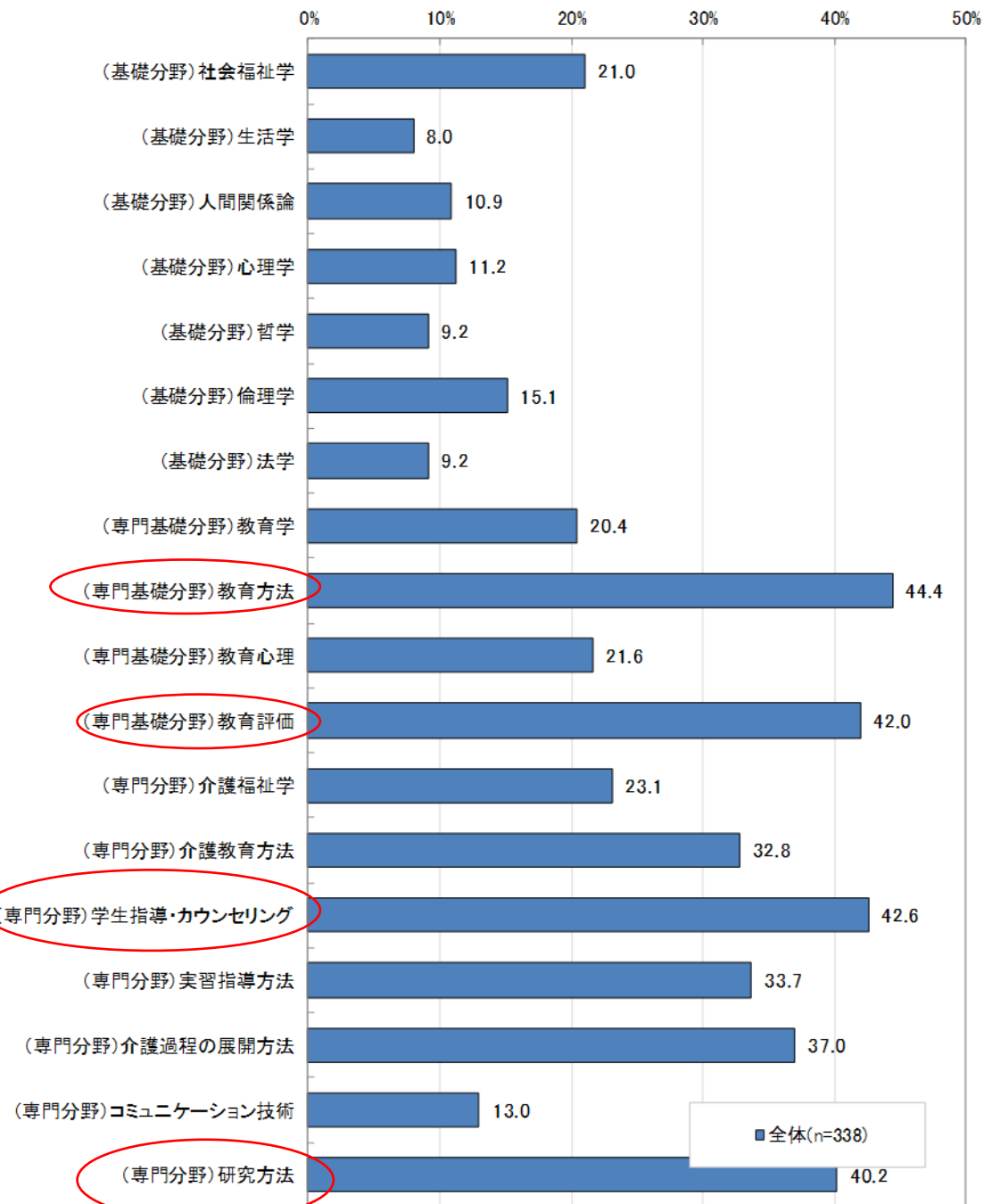
- 「どうすると授業が崩壊するのか」の見本のような講習会であった
- 話にならないほどいい加減であった等

調査結果

3) 介護教員講習会について

問24. 今後、介護福祉士養成をしていくにあたり、**介護教員講習会の各科目で学び直しの必要性を感じている科目**を教えてください。（複数選択）

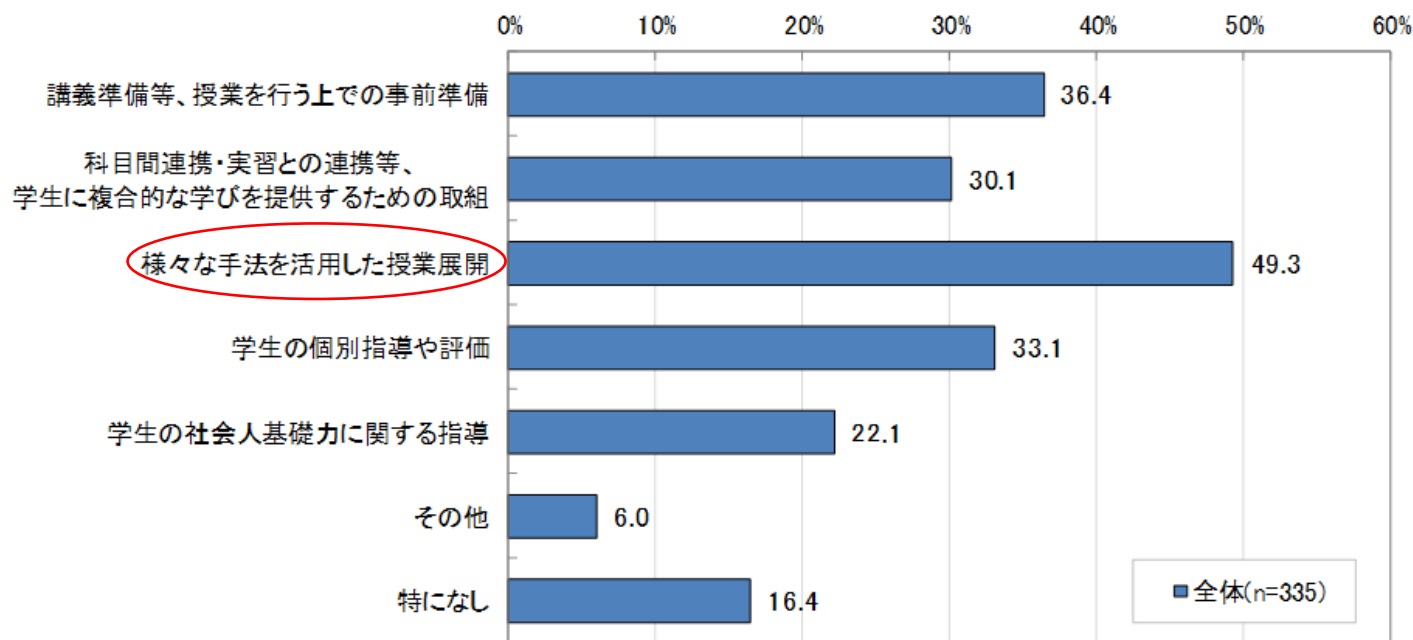
・ 「(専門基礎分野) 教育方法」が44.4%と最も高く、次いで「(専門分野) 学生指導・カウンセリング」が42.6%、「(専門基礎分野) 教育評価」が42.0%、「(専門分野) 研究方法」が40.2%であった。



調査結果 3) 介護教員講習会について

問25. 介護福祉士養成をしていくにあたり、現在、**自己研鑽が必要だと感じている事柄**を教えてください。(複数選択)

- 全体では、「様々な手法を活用した授業展開」が49.3%と最も高く、次いで「講義準備等、授業を行う上での事前準備」が36.4%、「学生の個別指導や評価」が33.1%。



調査結果 3) 介護教員講習会について

問25. <自由記述回答>

【講義準備等、授業を行う上での事前準備】については、「新たな知見や知識の吸収」が22件と最も多かった。

【講義準備等、授業を行う上での事前準備】

		回答数
具体的な授業準備について		計 76
	新たな知見や知識の吸収	22
	教材の準備（資料作成等）	16
	学生の個別性（性格/特徴/国籍等）を生かせるような授業準備	15
	シラバスの作成／授業計画	13
	アクティブラーニングを活用した授業を行うための準備	6
	オンラインを活用した授業準備	4
授業準備に関する課題		計 6
	時間がなく対応できない	6
その他		計 8
	その他	8
特になし		計 1
	特になし	1

調査結果 3) 介護教員講習会について

問25. <自由記述回答>

【科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組】については、「他職種との連携（実習指導者との連携も含む）」が17件と最も多かった。

【科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組】

		回答数
連携について		計 52
	他職種との連携（実習指導者との連携も含む）	17
	他科目との連携	16
	他教員との連携	11
	関連科目の理解	8
その他		計 4
	その他	4
特になし		計 1
	特になし	1

調査結果 3) 介護教員講習会について

問25. <自由記述回答>

【様々な手法を活用した授業展開】については、「オンライン授業の準備（ICTの活用）」が33件と最も多かった。

【様々な手法を活用した授業展開】

		回答数
具体的な授業展開について		計 102
	オンライン授業の準備（ICTの活用）	33
	アクティブラーニングを活用した授業展開	25
	学生の個別性（性格、特徴、国籍等）を生かせるような授業展開	19
	視覚的な教材を活用した授業展開	9
	地域等外部資源を活用した授業展開	6
	介護現場で利用されるICT（介護ロボット、LIFE等）も鑑みた授業展開	6
	補講や演習と連動させた授業展開	4
授業展開に関する課題		計 16
	新しい知識の習得や学びなおし	16
その他		計 2
	その他	2
特になし		計 1
	特になし	1

調査結果 3) 介護教員講習会について

問25. <自由記述回答>

【学生の個別指導や評価】については、「多様な学生への配慮（疾患、障害など）」が32件と最も多かった。

【学生の個別指導や評価】

		回答数
具体的な個別指導や評価について		計 72
	多様な学生への配慮（疾患、障害など）	32
	学生の評価	20
	留学生への配慮	13
	基礎学力が低い学生への配慮	7
個別指導や評価に関する課題		計 3
	指導時間の確保	3
その他		計 3
	その他	3
特になし		計 1
	特になし	1

調査結果 3) 介護教員講習会について

問25. <自由記述回答>

【学生の社会人基礎力に関する指導】については、「社会人基礎力が低い方への配慮した教育」が25件と最も多かった。

【学生の社会人基礎力に関する指導】

		回答数
具体的な指導について		計 34
	社会人基礎力が低い方への配慮した教育	25
	学生の評価	6
	留学生への配慮	3
指導に関する課題		計 5
	社会人基礎力指導に関する他教員との連携	5
その他		計 5
	その他	5
特になし		計 1
	特になし	1

調査結果 3) 介護教員講習会について

問26. 介護教員講習会の在り方について、自由にご意見をお願いします。

- ・ 介護教員講習会の在り方については、要望の意見が多く、「**資格の更新制やフォローアップ研修の要望**」が30件と最も多かった。

【介護教員講習会の在り方】

		回答数
介護教員講習会に対する要望について		計 204
	資格の更新制やフォローアップ研修の要望	30
	資格取得の費用、時期、時間・場所等の配慮の要望	22
	受講者の背景（学歴・出身など）に対する配慮の要望	22
	カリキュラムの見直し要望	19
	講師の要件の厳密化・質の向上に関する要望	16
	受講生や講師との更なる交流や関係性の構築に関する要望	14
	介護教員講習会の今後の継続開催要望	13
	オンライン開催の継続要望	13
	実施団体の質の標準化の要望	13
	講習そのものの標準化・質の向上	11
	研修の簡素化・単位制等の導入要望	10
	対面開催への要望	8
	より実践的な内容への講義内容変更要望	7
	留学生対応に関する講習内容追加要望	6
その他		計 9
	その他	9
特になし		計 7
	特になし	7

調査結果 4) 介護教員講習会実施者調査

- ・ 講習会実施者である事業者からの提供資料と、厚生労働省から提供を受けた各種資料により整理。
- ・ 1) 講習概要・受講者にかかる分類、2) 講習概要・事務局運営にかかる分類、3) 科目別講義カリキュラム体系の3種の分類にて、6実施団体を比較。

1) 講習概要・受講者にかかる分類

項目	
受講者要件	実施要項通り、介護福祉士または看護師、保健師、助産師、医師もしくは社会福祉士の資格を取得後5年以上実務に従事している方が望ましい等
講習受講試験の有無	小論文、面接
講習会定員、人数	15名程度～100名
修了要件	出席状況のみ、出席状況に加え、科目試験や論文提出、受講態度、服装等
研修効果の確認方法	受講後のアンケート調査（振り返りシートの記入）、グループでの振り返り等

調査結果 4) 介護教員講習会実施者調査

2) 講習概要・事務局運営にかかる分類

項目	
開催形式	オンライン形式（5団体）、対面形式（1団体）
受講効果の活用方法	カリキュラム、講師見直しなど講習会の改善への反映
受講者へのフォローアップ	フォローアップ研修の実施、講習会最終日に就職ガイダンスを実施
講師要件	独自に「講師の選定方針」を定めている、オンライン開催に対応できること等

3) 科目別講義カリキュラム体系

項目	
講習会時間	規定の300時間が4団体、306時間が1団体、402時間が1団体。
独自科目の設定	基礎分野の科目として、「ヒューマンサービス論」を設定している団体あり。

調査結果に関する検討委員会意見（抜粋）

介護教員講習会全般に関する意見

■ 各講習科目における指導内容に関する規定について

- ・ 現行の実施要領では、時間数の規定はある一方で、各科目における指導内容が明確になっていない。最低限、介護教員講習会で扱う内容も規定することで、本講習会の質を底上げする必要があるのではないか。

■ 各科目の受講順序の規定について

- ・ 介護教員講習会の各科目の受講順序は重要である。「教育・教師とは何か」といった教育者として必要事柄を学んだうえで、指導の方法論等に関する専門的な分野を学べるとよいのではないか。
- ・ 受講順序に関しては、講師都合ではなく、受講者の理解のしやすさを優先するべきではないか。

■ 介護教員講習会における実施内容の明示について

- それぞれの事業者が、実施状況を詳細に公開することが必要である。

調査結果に関する検討委員会意見（抜粋）

介護教員講習会の受講者に関する意見

■ 受講者要件の設定について

・ 現行の介護教員講習会では、事業者によって受講要件や受講期間が様々であり、かつ参加者についても受講者における現場の参加者の占める割合も様々である。受講者の質によっても講習必要時間や指導方法が変わってくる。ことが想定され、受講者要件は一定程度定めてもよいのではないか。

■ 受講定員要件について

・ 既存の講習では、1回あたり100名の講習を実施している事業者も見られるが、講義1回あたりの適切な定員を検討する必要があるのではないか。

■ 修了要件の標準化・明確化について

- ・ 受講率だけでなく、論文等の提出物を修了要件にしている事業者も見られるが、評価者が1名のみである場合、評価の公平性は担保されるのか。
- ・ 同一の介護教員講習会であるにもかかわらず、事業者によって修了要件が異なるため、何らかの一定の修了要件の規定が必要ではないか。
- ・ 受講者の不満として、他の受講生の受講態度に関する事柄が挙げられているが、オンライン講義における受講態度の評価方法について、根拠ある評価をすることは難しいことが考えられる。一定の評価基準が必要ではないか。

調査結果に関する検討委員会意見（抜粋）

■ 講習免除要件について

・免除要件については、現行では1事業者を除きすべて「厚生労働省の通り」となっているが、受講者からは受講者の背景に対する配慮の要望が挙がっている。事業者として、設定している講習免除要件をより明確に示すことが必要ではないか。

事業者の運営に関する意見

■ 介護教員講習会の開催方法について

オンライン開催形式の介護教員講習会では、実際に養成施設で教授する（教壇に立つ）際のイメージが持ちにくくなる、受講者との交流ができない、他一部の受講生の態度が悪いものの講師が十分な指摘がない等の不満が受講生から挙がっている。一方、受講の効率性の観点から、オンラインで実施したほうが良いと思われる科目もあるため、対面開催か、オンライン開催かといった開催方法についても検討が必要ではないか。

■ 介護教員講習会の受講後フォローアップについて

約9割の受講者において、介護教員講習会受講後の学び直しの機会提供が「なかった」と回答されている。教員全体の指導能力の向上のため、介護教員講習会を受講した教員に関しても、積極的に学びなおしの機会が提供されるべきではないか。

調査結果に関する検討委員会意見（抜粋）

■ 講師要件について

- ・ 現行の介護教員講習会では、1名の講師がすべての科目を担当している事業者がある。実施要領上、講師1名がすべての科目を担当することを妨げるものではないが、受講者からも、講師と科目のミスマッチや、講師の知識や能力不足についての不満の声が上がっており、複数人による講師体制とすることが必要ではないか。
- ・ 専門科目は5名以上の講師が担当する等、何らかの人数要件が必要である。
- ・ 各科目担当の講師同士の評価制度や、運営事務局である事業者が講師の評価を集約するなど、一定の講師に関する評価制度が必要ではないか。

まとめ

「社会福祉士実習演習担当教員講習会及び介護教員講習会の実施について（社援発第0306第26号）」（以下、実施要領という）で講習会実施の枠組みは示されているものの、検討委員会では、教員の質を担保するため、各事業者による差異を解消し、講習会の質の均てん化を図る必要性があることが指摘された。また、今回の調査結果をもとに、講習会の実施方法について、更に検討を進めていく必要性が示唆された。

【令和5年度老健事業テーマ】

適切な介護教員講習会の実施に向けた環境整備に関する調査研究事業

【事業概要】

介護教員講習会の受講者である介護福祉士養成校（以下、養成校）の介護教員については、養成校を取り巻く現状（外国人留学生の増加、学生間でのソーシャルメディアの普及等）や、令和元年度からの養成カリキュラムの改正を踏まえた教授の視点や力が求められている。一方で、講習会の内容や運営を含めた講師の体制については、大きなバラツキがある状況。このため、本調査研究では、全国の講習会の実施者（講師含む）及び受講者に対してアンケート・ヒアリング調査を実施し、講習会の実施にかかる現状・課題を整理し、ガイドラインを作成する。また、講習会の実施者による意見交換会を開催し、調査結果等の情報を共有し、ネットワーク構築による講習会の均てん化を図り、もって、適切かつ効果的に実施するための講習会のあり方の検討を行い、報告書にまとめる。